

## 問題作成の方針と出題のねらい

### 【英語(本試験)】

#### (1) 出題趣旨

高等専門学校(以下高専)入学者は、次代を担うエンジニアとして技術立国日本を支えるべく、在学中に実践的技術を修得し、卒業後はその技術と知見を活かした国際的な活躍が期待される人材である。グローバルな活動には、専門分野における高度な技術力に加え、それを伝える手段としての英語によるコミュニケーション能力が不可欠である。そのため、高専入学時においては十分な英語の基礎力とそれに基づく運用能力を備えていることが望ましい。

本入学者選抜学力検査は、各受験生がそれらをどの程度身につけてきたかを測定するために作成したものである。問題作成にあたっては、現在中学校で使用されている文部科学省検定済教科書(全6種類)を分析し、中学校学習指導要領の範囲内において受験生の能力を適切に弁別すべく配慮したが、教科書により語彙、連語、慣用表現などの学習状況が異なるため、長文問題の本文の後には、必要に応じ注を加えた。また、入学者選抜学力検査として適切な分量になるように調整を行い、更に難易度の異なる問題を配置することで、その目的が達成できるよう慎重かつ厳密に検討を重ねた。

なお、令和4年度入試以降、中学校では令和3年度から全面実施となった中学校学習指導要領(平成29年告示)に準じた出題範囲となっている。また、採点の公平性と効率性等の観点から、平成28年度入試から導入されたマークシート方式の解答・採点に対応する出題形式となっている。

## (2) 各問の出題意図

- 1 中学校で学習する基本語(句)に関する理解を問う問題である。対をなす2つの英文がほぼ同じ意味を表すよう、空所に適切な基本語(句)を補充させる形式をとっている。両方の英文に空所を設けることで、文全体の意味を慎重に読み取り、類推する力を求めている。問われている語(句)はいずれも基本的なものであるが、単純な暗記だけでは正解に至りにくく、英文の意味を正確に把握する力が必要とされる。
- 2 会話が行われている場面や話し手の状況を正しく理解し、その文脈に応じて適切な表現を選択できるかどうかを確認する問題である。単に定型的な会話表現を暗記しているだけでは対応できないよう、前後の発話内容や会話の流れを踏まえて判断する必要がある設問としている。実際のコミュニケーション場面において求められる、相手の意図を読み取り、適切に応答する力を測ることをねらいとしている。
- 3 与えられた語(句)を正しい順序に並べ替えることにより、語彙の理解、文法的知識、ならびに基本的な語順の把握といった総合的な英作文力を、会話文という文脈の中で測定する問題である。単に文法規則を機械的に当てはめるだけではなく、前後の会話の流れを踏まえて、自然で意味の通る英文を構成する力が求められる。なお、マークシート採点の都合上、3番目と5番目の語を選んで解答する方式とした。
- 4 現代のニュースで取り上げられることの多い、一定のストーリー性をもつ文章を題材とし、その中の空所に最も適切な語を選択させることによって、語彙、文法、語順、ならびに文構造に関する理解度を総合的に測る問題である。あわせて、単語の定義を説明した英文を読み、その内容に合致する語を選択させる設問も含んでいる。個々の語彙知識や文単位での理解だけでなく、文章全体の流れや文脈を踏まえて判断する力が求められる。
- 5 英文と図表を読み、数値を含む情報を詳細に把握する力をみる問題である。設問は、本文に基づき図表の内容を整理する形式、内容に関わる英文の空所を補う形式および会話に基づき内容を整理する形式から成る。解答に計算を必要とするものが含まれるが、要求される計算は基本的なものであり、英文中の情報が正しく読み取れば正解に至ることは可能である。なお、今回取り上げているテーマは、中学生の読書習慣に関わる身近なものであり、受験者が内容を具体的にイメージしながら英文を理解し、情報処理ができるよう配慮している。

- 6 英文を読み，その内容を論理的に把握できるかどうかを測る問題である。本文には多くの情報が盛り込まれており，文の流れや展開を意識しながら，順を追って内容を正確に理解して読み進めなければ正解に至ることはできない。また，本文の内容理解を前提として，情報を整理・再構成し，それを英語で表現する力を測る設問も含めている。なお，今回取り上げているテーマは高等専門学校における教育に関するものであり，受験生が関心を持ちやすい題材を用いることで，具体的なイメージを持ちながら読解に取り組めるよう配慮している。